

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

令和2年8月17日(月)作成

学校長：穴水 秀人

記述者：教頭 小林 雅人

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさと未来（あす）を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は，【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし，義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち，たくましく生きていくための健康，体力を持った児童生徒

【学校経営の概要】

1. 校訓 『日日新』（ひびあらた）
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝
 - は 励んで学び，確かな知識を持つ生徒 （知育） → 知の力
 - つ 強い精神と身体を持つ生徒 （体育） → 体の力
 - た 助け合い，いたわり合う心を持つ生徒 （徳育） → 心の力
4. 経営の基本方針
 - (1)すべての教育活動を生徒の育成に収斂する。
 - (2)山梨県学校教育指導重点，南アルプス市学校教育大綱及び教育振興プラン，各種法令に則った教育活動を行う。
 - (3)小中一貫校として，開かれた・特色ある・信頼される学校づくりに努める。
 - (4)生徒が安心して，安全に生活できる学校づくりに努める。
 - (5)日常での教師と生徒の信頼関係を基盤として，生徒理解を深め，一人ひとりのよさや可能性が活かされるように努める。
 - (6)教職員としての資質能力向上を図り，信頼される教育活動の実践・展開に努める。
 - (7)家庭・地域等との連携により，望ましい教育環境づくりに努めるとともに，外部機関等との信頼関係の構築にも努める。
5. 経営の柱
 - 【確かな学力の育成】
 - (1)個に応じたきめ細やかな指導
 - (2)社会情勢に対応した教育
 - (3)特別支援教育の充実
 - 【豊かな心の育成】
 - (1)ふるさと教育の推進
 - (2)情操教育の充実
 - (3)一人ひとりを大切にした教育・指導体制の充実
 - 【健やかな体の育成】
 - (1)体力の向上
 - (2)食育・健康教育の推進
 - 【学びを支える環境の整備】
 - (1)教職員の資質・能力向上
 - (2)家庭・地域と連携した学校づくり
 - (3)小中一貫教育の推進
 - (4)危機管理体制の整備・充実

I 全体評価

1. 教職員の自己評価 21名実施

※昨年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、自己評価の項目も小学校と同一のものとした。本年度は新型コロナウイルス感染症による影響（臨時休校・新たな生活様式）で、当初計画されていた教育活動を思うように実施できなかった。しかし、コロナ対策を行いながら、工夫して日々の活動を行ってきている。

(1) 本年度の特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目 6項目

「学校経営1：生徒は楽しく学校生活を送っている」

「学校経営3：学校教育目標達成のために『授業づくり』『安全・安心な学校生活』『いじめのない学校』の教育活動に取り組んでいる」

「学校経営4：家庭に適切な連絡や情報提供を行っている」

「学校経営5：生徒の安全が確保されるように防災教育・防犯教育等を整えている」

「生徒指導14：いじめなどのない楽しい学級づくりに努めている」

「生徒指導15：保護者（家庭）とは密に情報交換し、指導に取り組んでいる」

② A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目 7項目

「学校経営7：ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善を行っている」（81.0%）

「教育課程・学習指導10：八田小中スタンダード（含む、教科別年間指導計画）を活用している」（89.5%）

「教育課程・学習指導11：八田小中学習スタンダード（学習スキル・学習プロセス・学習モデル・学習ツール・学習チーム・学習ルール）を意識した授業づくりを進めている」（84.2%）

「教育課程・学習指導12：計画的な家庭学習の手立てをしている」（78.9%）

「特色ある開かれた学校17：開かれた学校を意識した、学校開放日等、保護者や地域に対し努力している」（85.7%）

「特色ある開かれた学校18：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている（学校応援団や子供を守る会）」（81.0%）

「特色ある開かれた学校19：合唱活動や運動会（体育祭）等の特色ある学校行事が充実するように努めている」（85.7%）

③ D（否定的評価）がついた項目 3項目

「学校経営7：ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善を行っている」

「特色ある開かれた学校17：開かれた学校を意識した、学校開放日等、保護者や地域に対し努力している」

「特色ある開かれた学校18：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている（学校応援団や子供を守る会）」

(2) 2学期の取組課題（自由記述より抜粋）○の中の数字は、項目番号

②学年通信等で、小中一貫校の教育目標を生徒にはもっと意識させたい。

②より一層地域愛のある生徒にするため、地域に関連した学習を増やしていく。

②生徒一人ひとりがどのような目標を持って過ごしているか把握していない部分もあるため、子供たちの目標をコミュニケーションの中でたくさん聞いていきたいと思う。

②生徒たちに、未来（進路）を考える機会を提供するよう意図したい。

⑤今年度は防犯に関わる講演ができなかった分、教員の力でおぎないたい。チラシなどは積極的に配布する。

⑥小中一貫校として、コロナに配慮した交流が何かあればと思う。

⑦定時で帰れる日は減多になく、家庭が犠牲になっている。

⑩教科別年間計画の活用が十分ではなかったため、一層活用する。

⑩年度の始めに見る程度になってしまっている。

⑪体育の授業におけるスタンダードの活用を模索中。

⑫家庭学習を増やしていく。学習習慣の定着を狙う。

⑫家庭学習の必要性は感じているが、手立てはあまりできていない。

⑫家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。提出物の未提出の生徒がまだ多い。

⑭言葉や行動が乱暴な生徒を時々見かけるが、その生徒に対する声掛けが不足している。見かけたらその場で伝えていくように努める。

⑰開かれた学校を意識できていないことが多い。

⑰学校開放日が、コロナ対応のためできなかった。

⑰保護者や地域に対して、今年度は可能な限りやっていると考える。

⑱地域の資源を把握することができていないため、主体的に把握していく。

⑱地域の教育力を生かす体制づくりが、意識できていないことが多い。

⑲新型コロナウイルス感染症の予防対策をしながら、合唱活動に力を入れていきたい。

⑲特色ある学校行事について、今年度は可能な限りやっていると考える。

⑲特色ある学校行事が、コロナ対応のためできなかった。

- ㊟すれちがった時の挨拶がさわやかにできる学校を目指していきたい。そのために自分から元気よく挨拶することを心がけたい。
- ㊟立腰教育をもっと意識させるために、生徒の目に触れるところに掲示をしたり、声掛けをしたりする。
- ㊟立腰の意識を高めていく。声かけを行う。
- ㊟授業の時や集会の時の「あいさつ」をもう少し全校できちんとできるように意識したい。
- ㊟アドジャンをやり始めて「人前で話すことに慣れてきた」とタイムくんを書いてあり、たくさん経験させることが大切だと思った。
- ㊟応援の取り組みを通して、伝統の3本の木への意識が高まった。挨拶・返事は、まだ発展途上である。

2. 学校生活に関する生徒アンケート 173名実施

※昨年度より小学校とほぼ同様の項目とした。ただし、発達段階が違うので表現が少し異なっている。

(1) 本年度の特徴

① A・B（肯定的評価）の合計が80%以上の項目（全校集計から）

19項目中13項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、90%以上が9項目あり、概ね良い結果が得られている。肯定的評価が80%未満で、課題と考えられる項目は、各学年において以下のようなものである。

② A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目

ア 1年生の評価

6項目。

「あなたは、授業中発言をしますか（小グループでの話し合い時も含む）」（74.5%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」（62.7%）

「あなたは、宿題以外にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）に取り組んでいますか（自主学习ノートを含む）」（55.0%）

「あなたは、家で読書をしていますか（宿題を除く）」（66.7%）

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」（72.5%）

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか」

9時間以上…12人 8時間ぐらい…19人 6～7時間ぐらい…15人 6時間未満…5人

イ 2年生の評価

7項目。

「あなたは、授業中発言をしますか（小グループでの話し合い時も含む）」（51.7%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」（76.7%）

「あなたは、宿題以外にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）に取り組んでいますか（自主学习ノートを含む）」（71.7%）

「あなたは、家で読書をしていますか（宿題を除く）」（63.3%）

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」（78.3%）

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか」

9時間以上…5人 8時間ぐらい…24人 6～7時間ぐらい…31人 6時間未満…0人

「あなたは、家の人に学校の様子を話していますか」（78.4%）

ウ 3年生の評価

7項目。

「あなたは、授業中発言をしますか（小グループでの話し合い時も含む）」（69.3%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか」（61.3%）

「あなたは、宿題以外にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）に取り組んでいますか（自主学习ノートを含む）」（69.4%）

「あなたは、家で読書をしていますか（宿題を除く）」（57.4%）

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか」（61.3%）

「あなたは、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか」（79.0%）

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか」

9時間以上…7人 8時間ぐらい…11人 6～7時間ぐらい…41人 6時間未満…3人

(2) 備考欄への記述

小学生のアンケートにはないが、中学生には1学期の振り返りから「要望事項や気付いたこと」を書いてもらっている。他のアンケート調査と重なったこともあり、今回は記述が非常に少なかった。

- ・教科書を読む時間が欲しい。
- ・授業中無駄話をしてしまった。
- ・提出期限の長い宿題などが提出できなかった。

Ⅱまとめ(成果と課題)。

1学期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、48日間(5月25日～7月31日)という短い期間となってしまった。感染症蔓延防止のため「健康チェック」や「消毒作業」等を継続し、3密を避けながらの活動を行ってきた。今後も十分な対策を講じながら、「新しい生活様式」を踏まえた活動をしていかなければならない。そのような状況ではあるが、「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、特に、今後以下の事柄について改善をしていく必要がある。

(1) 学習保障と学力向上のための取組

【成果】

○昨年度「南アルプス市立小中一貫校八田小中学校」として新たなスタートを切り、義務教育9年間を見通した教育課程を実施している。

○南アルプス市指定「学びの質を高める授業づくり推進事業」において、校内研究会(既に8回実施)で研究を深めることができた

○臨時休校中に教材研究をしっかりとすることができた。

○生徒自ら(生徒会の取組)が、本年度も授業規律について考えることができた。

○夏季休業の短縮や行事の精選等により、生徒の学習保障ができる見通しが立っている。

【課題】

○コロナ禍の中で、授業時数を如何に確保していくか。

○コロナ禍の中で、「主体的・対話的で深い学び」を如何に実現するか。

○授業の「振り返り」から、家庭学習に如何につなげていくか。

【対策】

○現在のところ計算上は必要となる授業時数が確保されてはいるが、今後コロナの第2波・第3波が来ることを考えると見通しを持った授業計画を立てる必要がある。文科省から出されている「学習活動の重点化」についての内容を各教科で確認し、効率的な授業を行う。

○GIGAスクール構想(高速通信ネットワーク・一人一台端末)が前倒しになり、南アルプス市でも今年度中に実現されることとなった。それによって双方向のオンライン授業も可能となり、もし臨時休校がまたあったとしても、授業を進めることができる。

○業務改善(行事等の見直しや働き方改革等)を行うことで、生徒と向き合う時間や教材研究等の時間をしっかりと確保する。

○生徒会で考えた授業の取り組み方を生徒自身で徹底していく。

○小グループによる協働学習がなかなかできない現状がある。そのような中でも、「主体的・対話的で深い学び」ができるような授業を創造していく。

○アドジャタイム(毎週水曜日に実施:「かかわりの力」の構成要素「自尊感情」「ソーシャルスキル」を育むための手立て)を継続し、ソーシャルスキルを身につけさせるとともに、学級の間関係づくりを行っていく。

『授業の基盤は学級経営の充実にある』

○昨年度に引き続き、「学級力アンケート」「主体的・対話的で深い学び、自己評価シート」「Q-U」「つなぐシート」等を実施し、分析をしながら、全校体制で授業改善に取り組む。

○県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。

○昨年度から実践しているOPPA(One Page Portfolio Assessment)を継続し、授業の「振り返り」を家庭学習につなげる。活用型の学習(深い学び)として、問題作りにチャレンジさせる。

○小学校とも連携し、学力(家庭学習)強化週間を設定する。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

○「学校いじめ防止基本方針」を昨年度末に見直し、4月の職員会議において、その内容を全職員で確認をした。八田中ホームページにも掲載中である。

○1学期間でいじめを4件認知し、継続支援中(解消している状況が少なくとも3か月継続することが大事)である。重大事態(生命心身財産重大事態・不登校重大事態)は、1件もなかった。

○生徒総会に代わる代議員会において、生徒の総意で「いじめ0宣言」をすることができた。

○1学期の不登校生徒(30日以上欠席)は、5名(全欠は1名のみ)である。それ以外に、病欠による30日以上欠席生徒が1名いた。昨年度15名の不登校生徒が在籍していたことを考えると、改善傾向にある。

【課題】

○いじめの取組について保護者に理解されていないところがまだある。また、困ったことがある時に相談できる友だちや先生がいないと答えている生徒や保護者も少なくない。

○不登校や不登校傾向にある生徒が昨年度よりも少なくなったとはいえ、皆無ではない。

【対策】

○「学校いじめ防止基本方針」に則った取組を確実にを行うとともに、年度末には見直しを行う。

○校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。

○スクールカウンセラー等による相談体制を確立するとともに、1年生全員のカウンセリングを実施する。

○不登校傾向のある生徒に対する居場所づくりを行い、再登校や社会的自立を促す。

